

## 神奈川県立藤沢支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

審議会等名称	令和6年度 藤沢支援学校 第2回学校運営協議会
開催日時	令和6年10月17日（木曜日） 午前9時30分～午前11時30分
開催場所	神奈川県立藤沢支援学校 第二被服室
出席者	運営協議会委員8名（本校校長を含む） 事務局教職員11名
会議資料	・令和6年度学校評価報告書（中間報告）
議事録	<p>1 開会  (1)校長あいさつ  (2)会長あいさつ</p> <p>2 令和6年度学校評価（中間評価）【学校評価部会】  前期の取り組み状況、成果と課題を総括教諭から報告</p> <p>3 地域と協働した取り組みの報告【切れ目ない支援部会】  防災における連携 地域と連携した教育活動 地域と連携したイベント  地域の障害理解</p> <p>4 授業視察  小学部・中学部の取り組み 高等部の取り組み</p> <p>5 協議  学校評価（中間評価） 前期の取り組み状況について</p> <p><b>意見・質問等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末の活用状況について  ⇒使用頻度、活用の幅が広がった。発信の道具としての活用が課題。  ⇒企業ではデジタル化が進んでいる。学校現場もさらに進める必要がある。</li> <li>授業力向上、授業改善、一人一授業公開について  ⇒参観後の意見集約や共有方法について、付箋に記して貼ることや、ICTを活用しシートに入力する等、隙間時間を有効活用しながら振り返りを共有する工夫をしてみたらどうか。</li> <li>医療的ケアを要する児童生徒の在籍数の動向について  ⇒医療的ケア実施校として認知されることにより、増えることが想定される。</li> <li>アセスメント教材の共有について  ⇒アセスメント教材がステージごとにまとめられ、誰もが使えるよう共有されている。  ⇒小中学校の教員に公開、職員が使い方等を説明することにより、小中学校で教材が再現できれば、互いの専門性の向上につながる。</li> </ul>

	<p>⇒学校間交流で、教材を使って交流活動を組んでみてはどうか。学習ツールとして活用が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通学支援について</li> </ul> <p>⇒通学を通して、社会とかかわるという視点を持つことが大切。スクールバスありきではなく、通学を一人ひとりの自立に向けた社会参加の機会と考えていく必要がある。</p> <p>⇒通学支援の希望はあるが、対応する人材が見つからない状況がある。地域における、ガイドヘルパーやボランティアの養成が望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「児童生徒のキャリア教育」と比較し、「保護者のキャリア教育」の浸透が進んでいないと感じるが、工夫している点はどこか。</li> </ul> <p>⇒学部ごとに、卒業後の生活とそれぞれの生活年齢において、身に着きたい力について、保護者学習会を実施している。</p> <p>⇒卒業生が働いている姿を実際に見ることで、「今やるべきこと」に気がつく。早い段階から、保護者に職場見学の機会が提供できるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の働き方改革について</li> </ul> <p>⇒労働時間が短縮されていることが、数字で見えている。このことが、職員の心の豊かさや、授業に向かう意欲につながることを期待する。</p> <p>6 閉会</p> <p>(1)校長あいさつ</p> <p>前半の取り組みが概ね順調に進んでいると報告させていただいた。本会でいただいた意見を後半の取組にいかしたい。</p>
次回開催予定日	令和6年11月12日（火）